

日本鉄鋼協会記事

日本鉄鋼協会春季大会

4月2日から5日までの4日間、東京において本会春季大会が開催され、第42回通常総会、第53回講演大会、特別講演会、懇親会、見学会の諸行事が盛大に行われた。

第42回通常総会 4月2日午後0時半、東京工業大学第1会議室において開催。先ず入理事開会を宣し、角野会長の挨拶があつた後、議事に入った。初めに理事、監事、および評議員の選挙が行われ、続いて31年度事業報告および収支決算の件ならびに32年度事業計画および収支予算の件を一括議題に付し、西郷理事の事業報告、浅田理事の会計報告、西村監事の監査報告があり、両件とも異議なく承認可決された。次いで角野会長より、今回八幡製鉄株式会社より渡辺記念資金1千万円を本会に寄贈された旨を報告、本総会の決議をもつて同社に対し感謝状を贈呈した旨を提案し、満場一致これを可決した。続いて梅津開票委員より理事、監事および評議員の選挙結果の報告があつた。当選者は次の通りである。(敬称略)

理事 青木不二男、伊藤正夫、佐藤忠雄、俵信次、橋口隆吉、平世将一(以上改選、任期2年)
葦沢大義(補欠、任期1年)

監事 河上益夫(改選、任期2年)

評議員

浅田梅	長七	平蔵	浅藤	田勝	譲治	足大	立河	彰原	池大	ケ谷	谷米	頼太	緒吉	石小	田島	新浩	稔一	入香	一三	二樹	上嘉	野村	建平	二郎
桂里	賢二	三幸	遠川	藤上	義成	川大	河端	栄之	大木	谷村	米音	太吉	郎吉	島池	島新	浩省	一介	香絹	三武	良弥	嘉里	村誠	平四	郎三
桑里	伸二	二幸	川幸	上田	成成	大川	端々	之川	佐木	村藤	音知	吉雄	齋中	藤藤	省省	三三	絹斎	川藤	武野	弥重	里西	孝三	郎三	郎三
錦宮	清之	治助	島峰	村谷	哲夫	高平	石岡	義正	滝広	沢田	寿工	一工	島本	島本	省省	量助	永町	野永	上重	三三	的的	秀幸	郎三	郎三
柳武	武	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)	(以上)
伊小	東柴	寛次	井上	友喜	大志	森賀	基芳	一雄	岡尾	田儀	儀三	一三	岡村	武夫	金多	田賀	義正	夫義	川村	手畑	寿夫	夫農	夫農	夫農
外森	健吉	雄吉	酒丹	上羽	志敏	田志	正志	信郎	山田	熊男	三男	三男	松本	兼二	村正	兼二	正之	助助	村田	田田	田田	田田	田田	田田
青北	均一	一榮	芥川	武二	伊藤	野五	朗五	今井	井勇	進進	進進	進進	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉	久葉
長川	崎博	博雄	野島	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太	福太
山川	貞雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄	和雄

続いて感謝状贈呈式が行われ、角野会長より八幡製鉄株式会社代表島村常務取締役に対し、感謝状が贈呈された。終つて表彰式に入り、角野会長より下記受賞者諸氏(敬称略)にそれぞれ表彰状ならびに賞牌または賞金を贈り、1時半式を閉じた。

服部賞(賞牌) 村田 巖

香村賞(同) 中島省一

俵賞(同) 河合正吉

渡辺賞(同) 佐藤忠雄

協会賞(賞金) 相原満寿美、岡本豊彦、栗山俊治、白石芳雄、菅野猛、橋本英文、益田義三、武藤千秋、守川平四郎

第53回講演大会 4月2日から4日まで3日間に亘り、東京工業大学講堂において行われた。第1日午前9時20分振鈴にて一同着席、角野会長より開会の挨拶があり、後5会場に分れてそれぞれ講演を開始した。講演は第1日25第2日48、第3日58、合計131の多数に上り、聴講者また400余名を算し、すこぶる盛況であつた。

また、日本金属学会と共同にて、別室において展示会が開かれ、各社出品の機械、計器、新商品等が所狭きばかりに展示され、参観者の注目を引いた。

特別講演会 4月2日午後1時半より東京工業大学講堂において開催、服部賞、香村賞、渡辺賞を受けられた下記各氏を講師として、はなはだ有益な講演が行われた。

室蘭製鉄所における製鉄技術の向上について(主として製鋼技術の進歩について)

ステンレス鋼管の製造上の諸問題について 富士製鉄室蘭製鉄所副長 村田 巖君

耐熱合金に関する諸問題について 日本特殊鋼管常務取締役 中島 省一君

日本特殊鋼製鋼部次長兼研究部次長 佐藤 忠雄君

懇親会 4月3日午後6時から、新粧の神田錦町学士学館本館において会員懇親会を開催した。参会者一同先ず記念撮影を行い、次いで食堂に入り卓についた。この席には恒例により、敬老の意をもつてとくに長老諸先輩を来賓として迎え、また表彰者諸氏を招待、役員ならびに一般参会者をあわせて出席者90名の多数におよんだ。

初めに角野会長の開会の挨拶があつて開宴、食後桂弁三博士、石原米太郎氏、浅田長平氏の諸先輩の有益なお話があり、次に中島省一氏より受賞者を代表して感謝の辞が述べられ、更には的場幸雄氏、嘉村平八氏の興味あるテーブルスピーチが行われた。最後に金子恭輔博士の発声にて、日本鉄鋼協会万歳を三唱し、午後8時半和気霽々の裡に散会した。

当日来賓としてお招きした先輩各位は次の通りであつた。(順序不同)

俄国一氏(欠)、桂弁三氏、金子恭輔氏、村上武次郎氏(欠)、川上義弘氏、井上匡四郎氏(欠)、黒田泰造氏(欠)、石原米太郎氏、松下長久氏、蒔田宗次氏(欠)、浅田長平氏、斎藤三三氏。

見学会 4月5日金属学会と本会と共同で、工場その他の見学会を行つた。見学先は日本鋳業日立鋳業所ほか17の工場、研究所などであり、また夜は「東京観光」を行つた。「昼の観光」は定員の関係で中止した。(詳細は6月号掲載の見学記参照)

第2回編集委員会 日時: 32-4-26(金) 9:00~11:30. 会場: 富士製鉄箱根山荘. 出席者: 佐藤理事外 15名, 報告事項: 4月号は4月18日完成発送済み, 5月号は5月15日完成予定, 協議事項: 7月号原稿選定の件一選定済み, 会誌交換および寄贈方依頼の件一日本原子力研究所との交換の外他は見合せ, 技術資料に関する件一鉄鋼技術共同研究会各部長に適宜資料の執筆依頼を, 芥川武氏に高温顕微鏡について執筆依頼のこと. 講義欄に佐藤知雄氏および松下幸雄氏に執筆依頼のこと, 6月および7月号に特別講演を掲載し, なお頁に余裕あれば技術資料として学振文献を掲載すること.

北陸支部役員改選 北陸支部ではこの程役員の改選を行つたが新役員は次の通りである。(敬称略)

支 部 長 石原寅次郎

支 部 理 事 石原寅次郎, 垣内富士雄, 菊池浩介, 斎藤弥平, 田宮鉄四郎, 橋浦彦三,

藤田輝夫, 松浦次義,

支 部 評 議 員 石原寅次郎, 岩崎航介, 大沼太吉, 垣内富士雄, 加藤純一, 菊池浩介,

斎藤弥平, 塩谷周三, 田宮鉄四郎, 内藤平八郎, 中野宏, 中路武雄,

西野十朗, 橋浦彦三, 藤田輝夫, 松浦次義, 村上明, 室町繁雄,

森棟隆弘, 養田実

日本鉄鋼協会第42回通常総会における表彰者推薦理由書

服部賞受領者

富士製鉄株式会社室蘭製鉄所

副所長 村 田 巖君

製鋼作業技術の改善進歩

君は昭和3年東京大学工学部冶金学科を卒業、直ちに官営八幡製鉄所に入り製鋼部に勤務し、昭和23年室蘭製鉄所に転じて現在に至っている。この間終始一貫製鋼作業技術の改善進歩に努めた。殊に室蘭製鉄所製鋼部長就任後は、平炉操業における燃料および燃焼法の重要性に着目し、工場全般の設備改善、技術向上に努力したことはもちろん、とくに平炉燃焼技術の進歩向上に最も力を尽し、困難な条件をよく克服して、現在の高圧冷コークス炉ガス燃焼ならびに酸素使用による平炉操業を確立した。また、鋼材の品質に関しては、とくに燃料中に含まれている硫黄の問題に着目し、昭和28年広範囲な調査研究を指導して、製鋼作業における硫黄の挙動を明らかにした。

かくのごとく同君の業績は、わが国製鋼技術の改善進歩に貢献するところきわめて顕著なるものがあり、表彰規程第三条の規定により、服部賞を受ける資格十分なるものと認める。

香村賞受領者

日本特殊鋼管株式会社常務取締役

工学士 中 島 省 一君

特殊鋼継目無鋼管の生産化に対する功績

君は昭和6年東京大学工学部卒業、株式会社吾嬬製鋼所入社、さらに昭和13年日本特殊鋼管株式会社に転じ

今日に至っている。その間終始製鋼および継目無鋼管の製造技術向上に努力しているが、その功績の主なるものを挙げれば次の通りである。

1. 昭和26年以来マンネスマン製管法による不銹鋼々管の製造に着手し、部下を統率して各種の困難を克服し、昭和29年には18・8不銹鋼々管の工業的生産に成功し、量的生産に移行現在毎月約30屯の定常生産を行っている。また現在最も製造困難とする25・20系不銹鋼の生産にも成功しているが、さらに日夜品質の改善、歩留りの向上に努力し顕著な成績をあげている。

2. ベアリングレースは、従来丸棒をくりぬいて製作していたが、これをパイプより製造する方法に早くより着目し、日本特殊鋼株式会社、特殊製鋼株式会社等との緊密な連絡の下に、日本精工、光洋精工、東洋ベアリング等諸会社において実用試験に成功し、すでに工業生産に移し、ベアリング製造法の近代化に大きな貢献をしている。

3. 機械構造用鋼管として各種強靱鋼、中炭素鋼、高抗張力鋼等の鋼管を製作し、使用先会社との緊密な連絡の下に、目的に適した高品質鋼管の生産に成功し、とくに各種自動車鋼管については、実用上遭遇した各種の事故に対処して適切な対策を施し、品質の向上を図り、一般機械工業とくに自動車工業界に寄与するところまことに大である。

君は多年特殊鋼継目無鋼管の製造技術の向上に力を致し、斯界に対する功績顕著なるものがある。よつて表彰規程第4条の規定により香村賞を受ける資格十分なるものと認める。